

2020年7月14日～15日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・流向流速の観測結果についてお知らせします。
 (函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

深度20m以浅の水温は14～19℃台で、昨年並もしくは1～3℃高めとなっています。深度20～50mの水温は6～15℃台で変化が大きく、特に深度30～40mには水温が急激に変化する「水温躍層」が見られます。

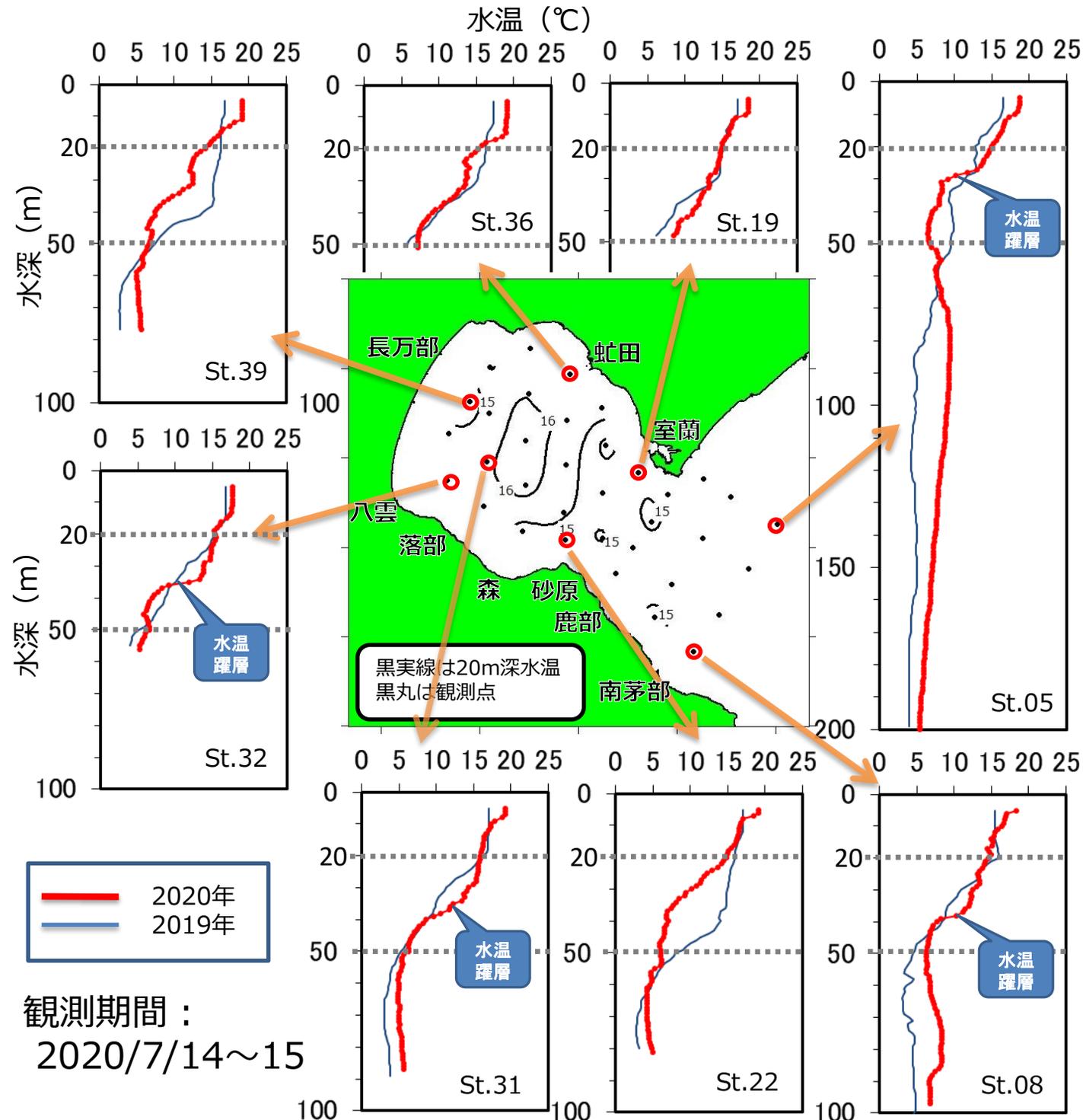


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布と20m深における水温の水平分布

【水平分布：水温、塩分、流向流速】

深度10mの水温は、噴火湾内の北側（長万部沖～虻田沖）では19℃以上と高く、一方で渡島半島東岸の森沖から湾外では17℃以下となっており、2℃以上の差が見られました。深度10mの塩分は、湾内は32.5以下ですが、湾外の室蘭沖は33.0以上と湾内よりも高くなっています。湾内には5月、6月に引き続き時計回りの渦が形成されています。また、湾外には塩分33.0の等値線に沿って反時計回りの流れが見られます。

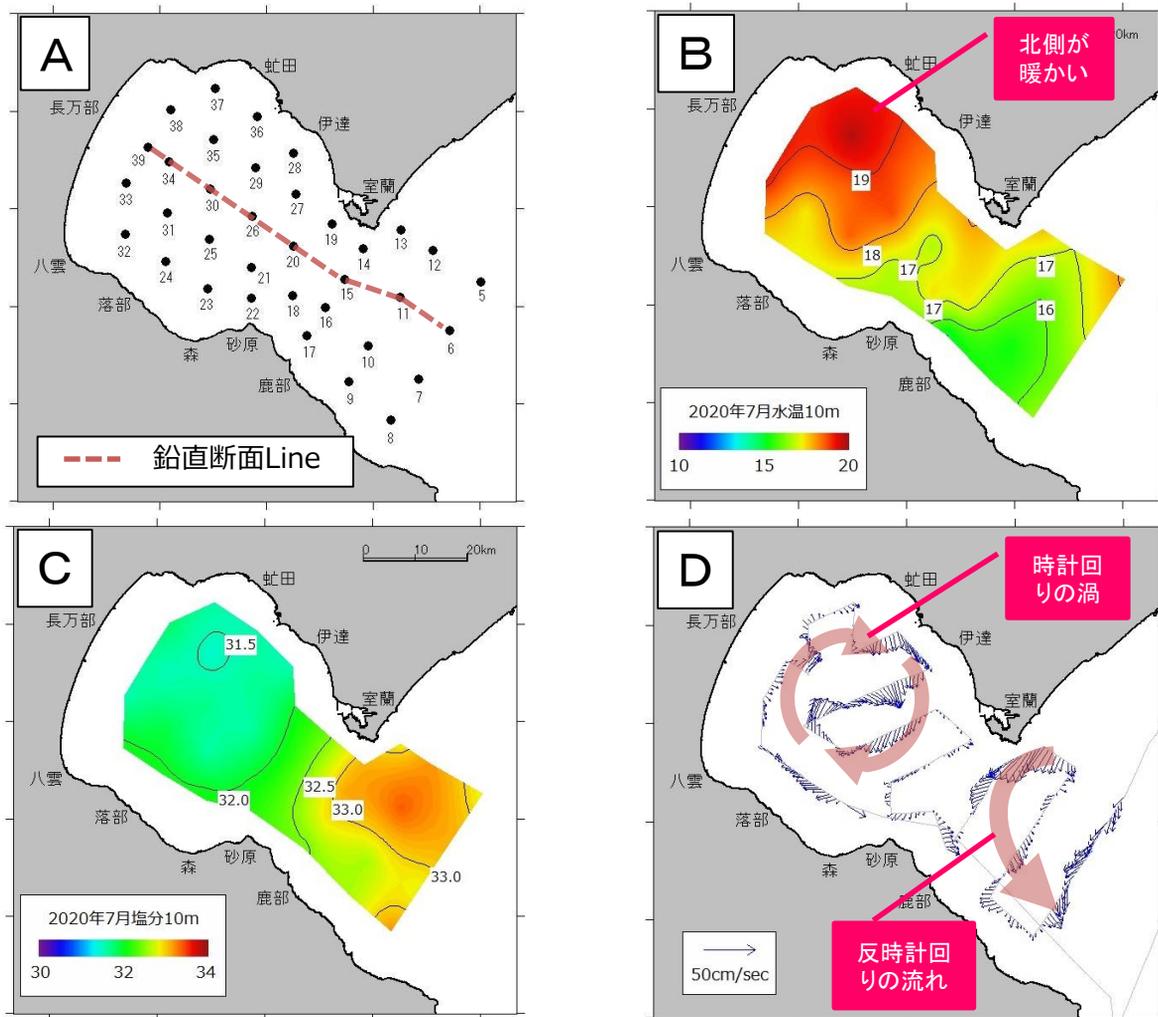


図2 A:調査点図, B:水温(深度10m), C:塩分(深度10m), D:流向流速(深度13m)

【水温、塩分の鉛直断面分布】

湾内の表層には、河川水の影響を受けた夏季噴火湾表層水(水温17℃以上, 塩分32.0以下)が広がっています。また、湾外の深度50m以深には津軽暖流水(水温6℃以上, 塩分33.6以上)が分布しています。

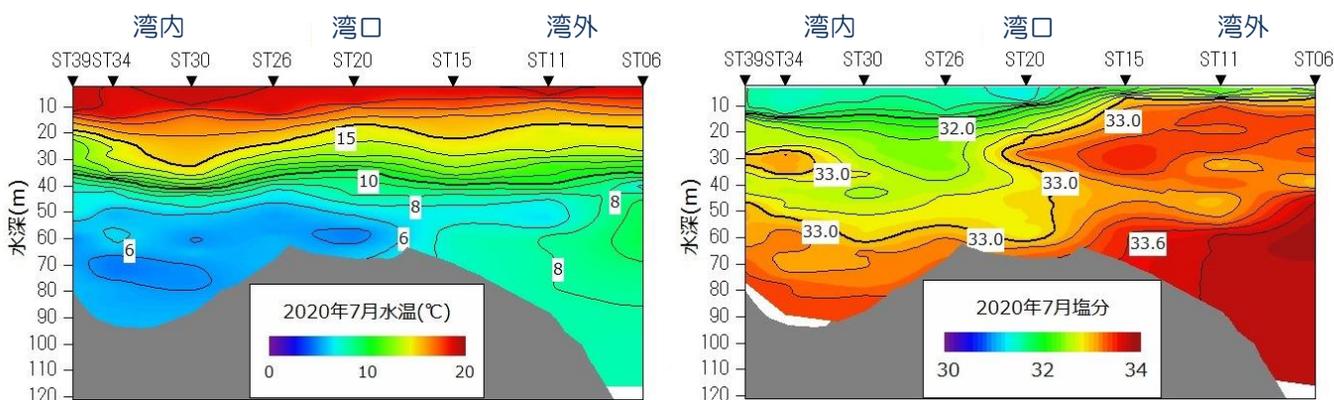


図3 水温・塩分の鉛直断面図(断面上部の▼は観測点)